

東京農業を応援したい気持ちがある！

東京農業の支え手育成支援事業

報 告 書

(平成30年度～令和2年度)



公益財団法人 東京都農林水産振興財団
Tokyo Development Foundation for Agriculture, Forestry and Fisheries

はじめに

日本の農業は従事者の高齢化や後継者の不足等による農地の遊休化・低利用化が問題となっていますが、世界的な大都市東京で展開する「東京農業」を取り巻く状況もその例外ではありません。

このような状況・課題に対応するため、公益財団法人東京都農林水産振興財団は平成30年度より東京の農業者を支援する「支え手」を募集し派遣する取り組みとして、「東京農業の支え手育成支援事業(東京都委託事業)」をおこなってきました。

都市農業を応援してくださる都民の皆様、実際に農地に足を運び農業者のサポートをおこなう援農ボランティアの皆様、この気持ちを受け止めて日々農業経営に励まれる皆様の力が結集し、東京の農業と農地が確実に次世代に受け継がれ、新鮮で安全な農畜産物と農地の緑が都民生活に潤いと安らぎを与えることにつながっています。

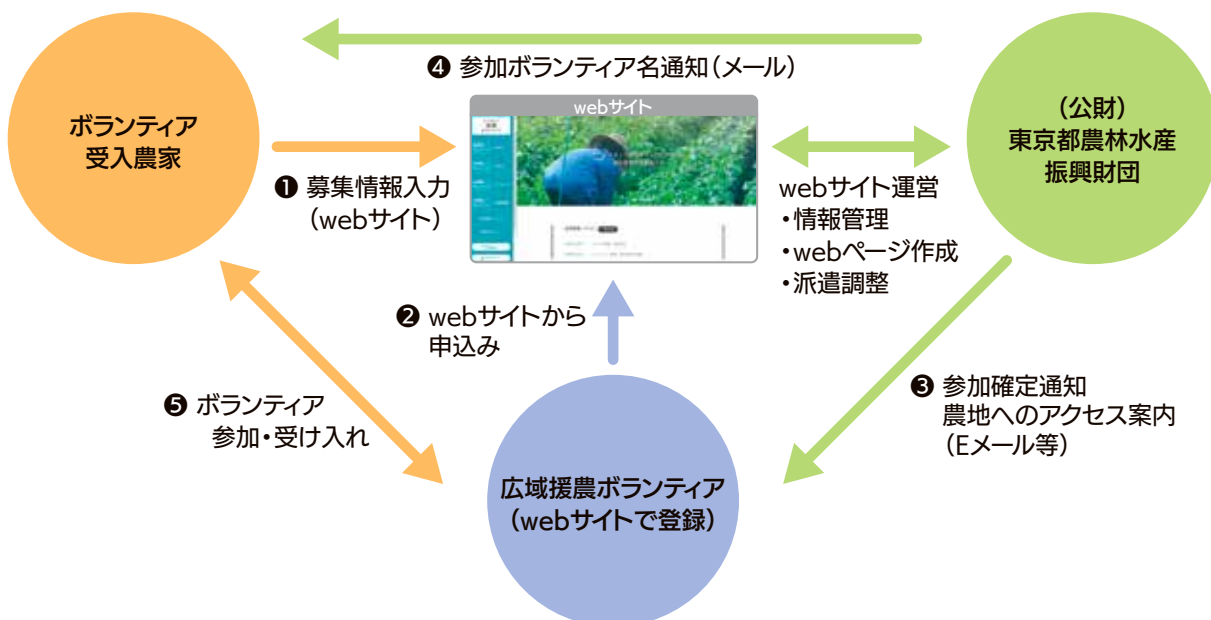
この冊子では、都市農業の魅力と価値を直に感じながら活躍される広域援農ボランティアの様子など、農業経営者のサポートに係る取り組みをご紹介します。

目次

1	広域援農ボランティア制度	1
2	農作業受託組織の実態調査(平成30年度～令和2年度実施)	11
3	都内区市町村における援農ボランティア制度の調査(平成30年度実施)	26
4	都内区市町村における援農ボランティア制度の取組計画調査(平成30年度実施)	27
	参考/財団事業紹介 地域援農ボランティアとボランティア養成中央研修(東京の青空塾)	28

1 広域援農ボランティア制度

(公財)東京都農林水産振興財団が東京都から委託を受けておこなった東京農業の支え手育成支援事業では、農業者の高齢化や担い手不足等から起こる低利用農地の発生を防ぎ、東京の農業を守ることを目的として、地域の枠を越えて参加できる広域援農ボランティアの登録・派遣を実施してきました。ここでは、平成30年度から実施してきた広域援農ボランティアのしくみ・特徴や実績を紹介します。



① 募集情報入力

農家がwebサイトに情報入力。財団がwebサイトの募集情報を編集

② 参加希望

ボランティア webサイトから申し込み(入力)

③ 参加確定

メール ボランティア宛 【参加確定】 6/4(土) 9:00~11:30

④ 参加者名通知

農家宛 【参加者名通知】 6月4日(土) 9:00~11:30 ○○様 □□市

⑤ ボランティア活動



ボランティアの登録

平成30年度まで…ボランティア登録希望者はメールで財団に申込み

令和元年度以降…新規開設した「とうきょう援農ボランティアwebサイト」の登録フォームにより広域援農ボランティア登録
登録要件は、「ボランティア活動に理解があり、農家の指導に従って農作業の手伝いができる高校生以上の方（経験不問）」

ボランティア登録

広域援農
ボランティア
をしたい方

The screenshot shows the homepage of the 'とうきょう 援農 ボランティア' website. On the left is a blue sidebar with navigation links: '地域援農 ボランティア', '広域援農 ボランティア', '高齢援農 ボランティア', '広域援農 ボランティア の登録情報', '新着情報 / ブログ', and '農家の方へ'. The main content area is titled '広域援農ボランティアをしたい方' and contains a section 'ボランティア登録から参加までの流れ'. It lists steps for registration, including creating an account, logging in, and completing a registration form. A red box highlights the requirement: 'ボランティア登録から参加までの流れ'.

ボランティア 登録フォーム

The screenshot shows the 'ボランティア登録フォーム' (Volunteer Registration Form). It includes a progress bar with three steps: '入力' (Input), '内容の確認' (Check content), and '送信完了' (Submission complete). Below the progress bar, there are input fields for '氏名' (Name), '記入例: 田中 太郎', '年齢' (Age), '記入例: 25歳', '記入例: 東京都文京区', and 'メールアドレス' (Email address), with a note to use a Gmail address. A red box highlights the requirement: 'ボランティア登録から参加までの流れ'.

受入農家の登録

とうきょう援農ボランティアwebサイト、区市町村、農業改良普及員、JA等の協力により制度を周知

援農ボランティアの受入を希望する農家を事務局が訪問。援農制度を説明して受入れ農家登録の申し込みを受け付け

受入農家 登録フォーム

The screenshot shows the '農家登録フォーム' (Farmer Registration Form). It includes a progress bar with three steps: '入力' (Input), '内容の確認' (Check content), and '送信完了' (Submission complete). Below the progress bar, there are input fields for '氏名' (Name), '記入例: 田中 太郎', '年齢' (Age), '記入例: 25歳', '記入例: 東京都文京区', and 'メールアドレス' (Email address), with a note to use a Gmail address. A red box highlights the requirement: 'ボランティア登録から参加までの流れ'.

登録会員のボランティア参加申込み

募集情報

広域援農ボランティアの募集情報

The screenshot shows the homepage of the Tokyo Volunteer Farming website. On the left is a blue sidebar with navigation links: 'とうきょう 援農 ボランティア', '各地援農 ボランティア', '広域援農 ボランティア', '広域援農 ボランティア', '広域援農 ボランティア', '広域援農 ボランティア', '新着情報・ブログ', and '農業者の方へ'. Below the sidebar is a 'ログアウト' button and the text 'ようこそ 農作業サポートセンター'. The main content area is titled '広域援農ボランティアの募集情報' and features several job listings with photos. The first listing is for 'ハウスでのミニトマト栽培 in 香南市 長穂本番 定員2名ずつ' (Mini-tomato cultivation in a house in Kagami City, Nagahori Main Season, 2 people per group). Other listings include '1月 大・土曜日 武蔵五日市駅 から徒歩 あきる野市 温蔵なま内 ミニトマト栽培 臨海取りなど' and '1月 玉川上水 野菜栽培管理 (午後)'.

ボランティア 応募フォーム

The screenshot shows the application form on the Tokyo Volunteer Farming website. The form is titled 'とうきょう 援農 ボランティア' and includes fields for '受け入れ希望' (Desired reception), '希望日と時間' (Desired date and time), '希望の作業' (Desired work), and '希望の地域' (Desired area). There are also checkboxes for '希望の作業' (Desired work) and '希望の地域' (Desired area). The form is divided into sections for '希望の作業' (Desired work) and '希望の地域' (Desired area). The '希望の作業' section includes a dropdown menu for '希望の作業' and a text input field for '希望の作業'. The '希望の地域' section includes a dropdown menu for '希望の地域' and a text input field for '希望の地域'. The form also includes a '希望の日' (Desired date) field and a '希望の時間' (Desired time) field. The form is divided into sections for '希望の作業' (Desired work) and '希望の地域' (Desired area).

ボランティアの派遣決定

web サイトから参加申込みがあったボランティアには、参加確定メールを送付
受入れ農家には参加者名をメールで通知

ボランティア活動

参加を申し込んだ日にボランティアが農家を訪問し、農家の指示のもと農作業に従事する。



タマネギの定植



ナスの出荷調製

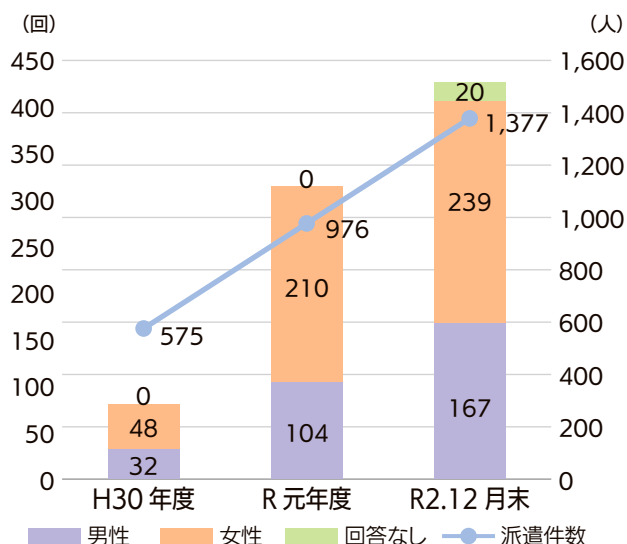


カボチャ苗の定植

ボランティア登録・派遣状況

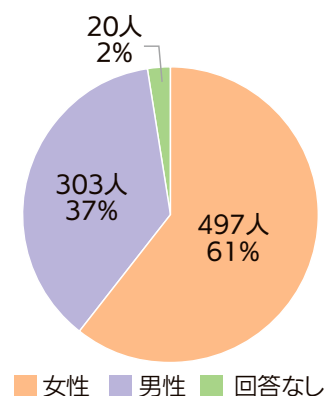
① 平成30年4月～令和2年12月末までのボランティア登録数及び派遣回数の推移

	H30年度	R元年度	R2年度
派遣回数	575	976	1,377
新規登録人数	80	314	426
男性	32	104	167
女性	48	210	239
性別回答なし	0	0	20
受入農家数	16	24	33

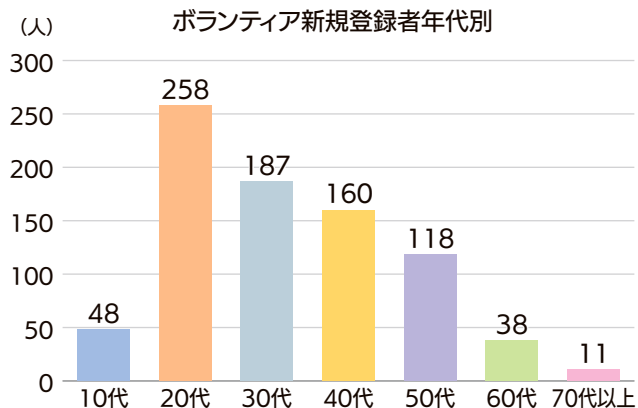


② 新規登録したボランティアの年代別・性別円グラフ

ボランティア新規登録者男女別

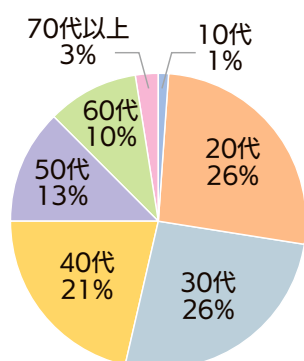


ボランティア新規登録者年代別

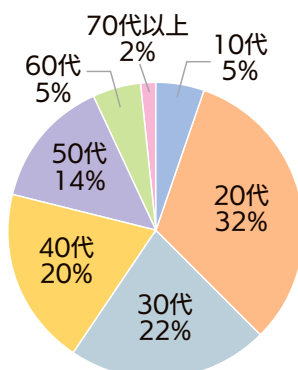


③ 新規登録したボランティアの年代別割合の変化

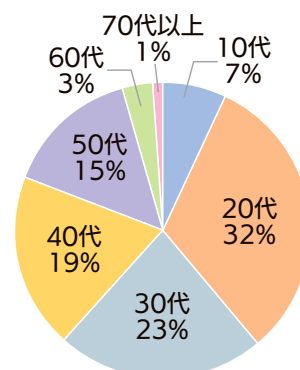
H30年度新規登録者年齢別(80名)



R元年度新規登録者年齢別(314名)



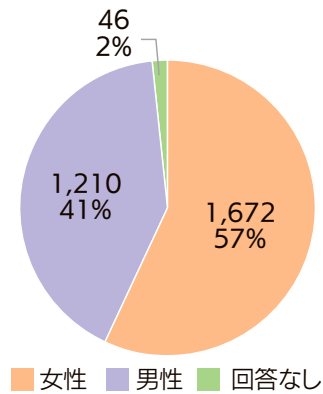
R2年度新規登録者年齢別(426名)



web サイトを導入した令和元年度以降、20代の登録者数が増えている。

④ 参加ボランティアの性別

ボランティア参加者男女別データ



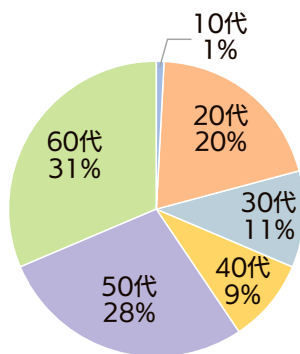
平成30年度～令和2年度 参加総数のうち6割近くが女性



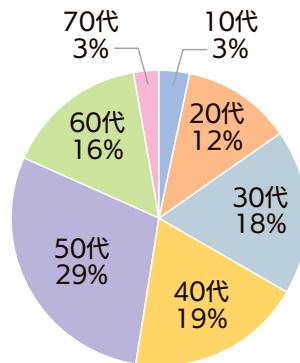
ナスの支柱たて

⑤ 参加ボランティアの年齢別 推移

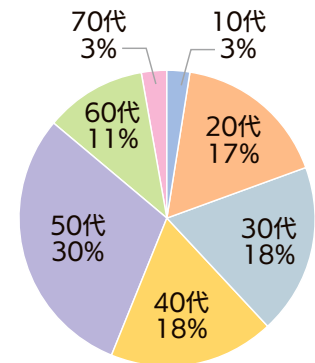
H30年度参加者年代別(575名)



R元年度参加者年代別(976名)



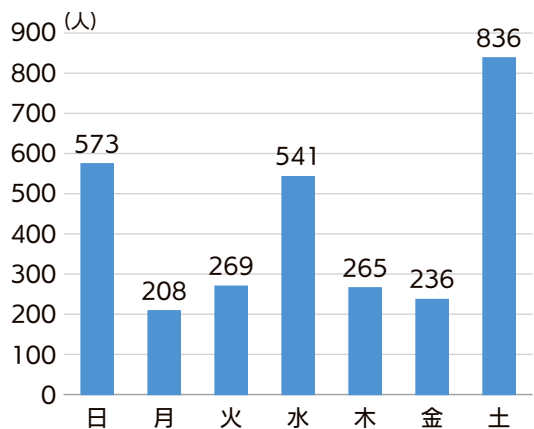
R2年度(12月末)参加者年齢別(1,377名)



60歳代の参加比率が下がり、40歳代の参加比率が高まっている。

⑥ 曜日別ボランティア参加者数(平成30年度～令和2年度)

ボランティア参加者曜日別参加データ



派遣数2,928のうち、約3割が土曜日、約2割が日曜日、水曜日



防草シート貼り

⑦ ボランティア登録者居住地の集計

(人)

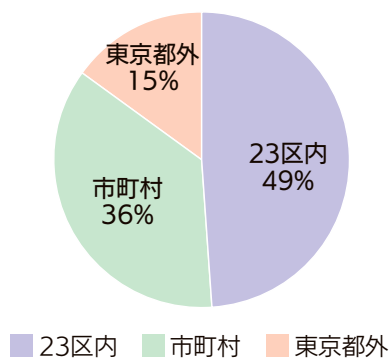
千代田区	3
中央区	10
港区	11
新宿区	24
文京区	10
台東区	6
墨田区	11
江東区	20
品川区	23
目黒区	8
大田区	25
世田谷区	51
渋谷区	13
中野区	25
杉並区	35
豊島区	19
北区	15
荒川区	4
板橋区	17
練馬区	35
足立区	13
葛飾区	4
江戸川区	16
23区内計	398

八王子市	60
立川市	7
武蔵野市	9
三鷹市	15
青梅市	3
府中市	15
昭島市	9
調布市	45
町田市	10
小金井市	9
小平市	12
日野市	14
東村山市	4
国分寺市	7
国立市	8
福生市	1
狛江市	10
東大和市	4
清瀬市	2
東久留米市	15
武蔵村山市	4
多摩市	9
稲城市	7
羽村市	1
あきる野市	4
西東京市	11
瑞穂町	1
日の出町	1
新島村	1
市町村計	298

茨城県	3
群馬県	1
埼玉県	34
千葉県	22
神奈川県	64
東京都外	124

23区内	398
市町村	298
東京都外	124
合計	820

ボランティア登録者の居住地



ミニトマトの芽かき

ボランティア・農家に対する研修の実施(制度の説明、農作業の指導)

研修内容・年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度 (令和2年12月末時点)
ボランティアに対する研修	54回	50回	72回
ボランティアの受け入れ農家に対する研修	10回	10回	9回



キャベツ苗の定植

苗定植機についてレクチャーを受けたボランティアがキャベツ苗を機械に投入する(定植機の操作は農家)。



ニンジンの収穫

農家の指導を受けて、以下の流れで収穫作業をおこなった。

- ・ ニンジンを抜く
- ・ 葉と先端を切る
- ・ 作業場まで運び、洗浄



ダイコンの間引き

農家から「間引き」の説明を受けた後、持ち場に分かれて作業



トマトの誘引作業

トマトの茎をクリップで縦ひもに固定する。



ペチュニアの花がら摘み

農家の指導を受けながら、不要な部分（花や葉）を取り除く。



ポット苗（花苗）への追肥

トリガーを引くとあらかじめ決めておいた量の肥料が排出される器具を使用して、一鉢ずつ施肥する。



エダマメの出荷準備

機械を使って豆を枝から切り離し、袋詰め準備をおこなう。



ダイコンの出荷準備

ダイコンを収穫して洗浄し、1本ずつビニール袋に詰める。

援農ボランティア事業PRのために作成し、ボランティアに配布したジャンパー・タオル・手拭い

平成30年度
PRジャンパー



令和元年度
PRタオル



令和2年度
PR手拭い



2 農作業受託組織の実態調査(平成30年度～令和2年度)

1 東京都認証特定非営利活動法人における農業振興活動の実態調査(平成31年1月)

都内には、農業振興に関わる活動を行っている特定非営利活動法人(以下NPO法人)があります。ここでは、各NPO法人の定款に記載された目的に「農」のキーワードがある230団体に対して行ったアンケート結果を紹介します。

(平成30年12月13日現在において東京都NPO法人ポータルサイトに登録のある東京都認証NPO法人のうち、定款に記載された目的に「農」のキーワードが含まれる団体(230団体) 回答数/調査対象数 76団体/230団体 (回収率33%))

1	農業振興に関わる活動をしている	50 団体
2	上記 1 の活動場所は東京都内を含む	32 団体
3	東京都内の農地で農作業の支援をしている	14 団体 ※注
4	援農ボランティアをしている(都外での活動を含む)	16 団体(有償 2 団体、無償 14 団体)
5	農作業受託をしている(都外での活動を含む)	7 団体(有償 1 団体、無償 6 団体)
6	援農ボランティア、農作業受託以外の農作業支援をしている(都外での活動を含む)	6 団体
7	団体が農作業の支援をしている農家の戸数(総合計)	都内 144 戸、都外 65 戸
8	農作業の支援を行う者の人数(総合計概算)	概算 791 名
9	農作業の支援を行う者に対して研修を実施している	8 団体
10	農作業支援を行う上での問題点・課題がある	14 団体 ※人材・運営経費の不足等
11	今後、新規もしくは事業拡大として、東京都内の農地での農作業支援を検討している	22 団体

注:東京都内の農地で農作業の支援をしているNPO法人は下記のとおり(14団体)

たがやす(町田市)、畑の教室(練馬区)、地球文化交流協会(渋谷区)、緑の大地会(八王子市)、すずしろ22(八王子市)、武蔵野農業ふれあい村(武蔵野市)、農の未来ネット(清瀬市)、めぐみ(日野市)、村おこしNPO法人ECOFF(文京区)、日野人・援農の会(日野市)、せたがや喜多見農とみどり(世田谷区)、里山保育やまっこかわっこ(檜原村)、はちぶろ(八王子市)、ふるさと日本プロジェクト(千代田区)

2 都内で農業振興に関する活動を行うNPO法人の活動状況調査(令和2年3月)

都内には、農業振興に関わる活動を行っているNPO法人があります。ここでは、都内で援農ボランティア活動を行っている7団体から得た調査結果を紹介します。

7団体のうち、現在、農業者の農作業支援を行っているのは6団体で、有償あるいは無償で地域の農家において、播種、栽培管理、収穫、出荷調整などを行っています。その他の団体は、農作物の販売・学校給食への提供、市民農園の管理・指導といった別の側面から農地の保全に寄与しています。



NPO法人 たがやす



NPO法人 日野人・援農の会



NPO法人 すずしろ22



NPO法人 はちぷろ



NPO法人 せたがや喜多見農とみどり



NPO法人 農の未来ネット

1 活動の目的

援農を必要とする農家と農業体験を希望する市民をつなぎ、援農活動、市民・体験農園の運営、地場野菜普及活動、生ゴミリサイクル運動などに取り組む。援農活動は、相互扶助のボランティア精神に基づき、農家と市民の協力により、多面的な機能を有する東京の農地を維持・管理し、今後も農地として存続させることを目的とする。

2 活動が始まったきっかけ

従事者の高齢化等により担い手不足となっている地元農家を守るため、主婦（生活クラブ）が中心になって始まった。
4軒ほどの農家で10名ほどのボランティアが活動するところからスタート

3 会員資格・年会費・会員数

会員資格なし。受入農家は正会員。援農ボランティアは2ヶ月以内の試用期間後、会員となりボランティアに参加
年会費：個人正会員3,000円、団体正会員10,000円、賛助会員1,000円 会員数約150名

4 会員の募集方法・特徴

広報まちだ、法人webサイト、生活クラブ生協の広報誌、地域広報紙、季刊誌まちびと、ポスティングチラシ、会員からの紹介などで募集。定年後の方、社会貢献したい方々が多い。

5 行政等からの支援の有無

町田市より農業研修事業を受託

6 活動概要

- | | |
|--------------|--|
| 1 農作業受託 | 農作業の継続が困難な農地所有者に代わり、農作業を行なう。 |
| 2 援農ボランティア | 町田市内の農家で野菜の収穫、苗定植、袋詰、堆肥散布、除草などを手伝う。例年約70名が週2日程度参加。会員間相互扶助精神による有償ボランティア（農家から590円/1時間を集金し、事務経費等を差し引き470円がボランティアの謝礼）。これによりボランティア・農家双方に責任感が生まれる。 |
| 3 農業研修受託事業 | 法人の研修農園にて援農ボランティア育成講座開講（40回/10ヶ月間） |
| 4 地場野菜普及活動 | 直売所で地場野菜を販売、地場野菜セットの宅配（近隣個人宅）、出荷作業代行、食育活動 |
| 5 体験農園事業 | 年会員対象の講習会、一般参加者向け収穫体験イベント、自然観察会、バーベキューなど |
| 6 生ゴミリサイクル事業 | 町田市大型生ゴミ処理機の一時的生成物、まちだリス園の糞などを利用した堆肥作り |

7 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っている事、今後の方向性など

農家・援農ボランティアの高齢化。ボランティアの不足。会の運営事務もボランティアである（謝礼約500円/時）。近年農地を借りて果樹・キノコ栽培も開始。スタッフの農業技術をさらに高め、農家から頼られる存在になりたい。

8 事務局もしくは会員からひとことメッセージ（援農に興味を持っている方へのメッセージ、活動の感想など）

農業は地道な作業が多いが、蒔いた種が育って収穫に至る喜びは何事にも代え難い。収穫体験、家庭菜園の参考、新規就農を目指すなど参加方法は色々あり、どの活動も地域の農業応援につながるので気軽に参加して欲しい。

9 問合せ先（事務局・グループ連絡先等）

住所 〒194-0023 東京都町田市旭町1-23-2 生活クラブ館まちだ
電話 042-794-9002 090-3435-8611 Eメール npo-tagayasu@nifty.com 担当者 斉藤 恵美子

NPO 法人 日野人・援農の会

日野市

1 活動の目的

行政との連携の下に主として日野市域における農業及び農家を支援するボランティア活動事業（援農ボランティア活動事業）を推進するとともに、良好な農業環境の維持、向上を図り、もってみどり豊で活気に溢れたまちづくりに寄与することを目的として関連する活動を目的とする。

2 活動が始まったきっかけ

平成17年4月に日野市援農市民養成講座「農の学校」開講。翌年修了一期生が親睦団体「日野人・援農の会」を結成し、援農ボランティア活動を開始。平成24年4月「特定非営利活動法人日野人・援農の会」発足。

3 会員資格・年会費・会員数

1) 上記「農の学校」修了生 2) 援農・野菜栽培塾修了生（本法人主催） 3) 援農活動に実績のある人
正会員・協力会員年会費…1,000円 協力会員年会費…個人（1口）3,000円／団体（1口）5,000円
正会員…117名、協力会員…13名、賛助会員…個人37名、団体会員…1団体

4 会員の募集方法・特徴

「農の学校」及び「援農・野菜栽培塾」受講者は日野市広報誌で募集

援農活動に実績のある人の募集は都度（面談あり）

会としては援農ボランティア活動を優先しているが、スキルアップのための研修農園・実験農園での卒業生同士の交流もある。新年会、お花見の会、地区別懇談会、収穫祭（芋煮会）、視察研修などもある。

5 行政等からの支援の有無

日野市（指導・バックアップ）、東京南農業協同組合（賛助会員・団体）

6 活動概要

「日野市援農ボランティア紹介斡旋調整事業に関する協定（日野市・JA東京みなみ・本法人）」に基づき活動

活動年度	受入農家	ボランティア数	援農日数	援農時間
平成 29 年度	45 軒	102 名	3,869 日	11,870 時間
平成 30 年度	44 軒	103 名	3,932 日	12,000 時間
令和元年度	43 軒	102 名	3,700 日	11,400 時間

7 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っていること、今後の方向性など

ボランティアは女性が増加している。ボランティアと受入農家の高齢化が課題。受入農家の要望との調整が難しいこともある。営農に準ずる作業の要望（機械を使う作業）も増えている。

8 事務局もしくは会員からひとことメッセージ（援農に興味を持っている方へのメッセージ、活動の感想など）

日本の高齢化と農業への関心の高まり（健康管理や野菜の高騰など）で援農志望者は多いが、やる気があっても「できる」には相当の時間と根気が必要であり、作業を覚える機関（農の学校や実習道場）が不可欠となる。それを支える施設（圃場、農機具・道具置場）や講師体制づくりを考えたい。

無償のボランティアに対する「ご苦労様の声」と「貢献ポイント（地域消費奨励策）」の付与など、「やってよかった」を実感できる施策を詰めていきたい。

9 問合せ先（事務局・グループ連絡先等）

法人web サイト <https://hinobito-ennou.org>（問い合わせフォームあり）

1 活動の目的

広く一般市民と農家を対象として、援農ボランティア、農作業受託事業及び地場野菜提供事業を行うことにより農業を活性化することとともに食料供給、防災、環境保全、農耕文化の継承など多面的価値のある農地を都市住民の生活環境の中に存続させることで社会教育の推進や環境の保全等に寄与することを目的とする。

2 活動が始まったきっかけ

農家の人手不足を解消し、次世代に農地をしっかりと残したいと、援農活動を始めた。次の世紀(22世紀)までしっかりと農地を残したいと思い、法人の名称に22を入れている。

3 会員資格・年会費・会員数

会員資格なし

年会費 個人正会員1,500円 団体正会員10,000円 賛助会員(個人・団体) 1,000円

会員数 正会員…114名 団体会員…1名 賛助会員…8名(令和元年12月末現在)

4 会員の募集方法・特徴

「お父さんおかえりなさいパーティ」(市民活動団体等紹介イベント)、法人web サイト、会報誌、市農業祭、いちよう祭り、ポスター掲示

会員は男性55% 女性45% 主に60才～70才代の農業に興味がある方々

5 行政等からの支援の有無

支援は受けていない。

6 活動概要

(1) 援農ボランティア 30軒の農家 40～50名/月で援農(有償) 2019年実績…約16,500時間

謝礼は、460円/時間+野菜

(2) 農地活用プロジェクト(農地の活用・保全を目標) 遊休農地で市民農園を開設(5ヶ所)

(3) 地産地消活動 地場野菜の料理教室開催(年3回)、いちよう祭り・農業祭で会員農家の野菜を即売

7 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っている事、今後の方向性など

創立15年目で会員の高齢化が進行。援農の担い手は70歳代。PR活動を継続し会員の獲得に努めている。

8 事務局もしくは会員からひとことメッセージ(援農に興味を持っている方へのメッセージ、活動の感想など)

援農、農作業委託のニーズは今後も高まると考える。援農活動を充実し農家の役に立ちたい。

9 問合せ先(事務局・グループ連絡先等)

住所 八王子市川町128-61

電話 080-3347-6491

Eメール akkai@ymobile.ne.jp

法人web サイト <http://www.suzushiro22.org/index.html>

担当者名 清水 義秋

NPO 法人 はちぷろ

八王子市

1 活動の目的

八王子市高月町の農業を中心に、豊かな営農環境を保全し、地域文化を次世代に承継することで、地域住民のみならず広く市民の利益の増進に寄与するため、地域住民・農家・酒蔵・酒販店の社員・地域企業が中心となり、地域の「大学」「企業」「市民」とともに、「日本酒をはじめとした農業生産物の商品開発」「農業等の地域産業の振興」「地域経済の活性化」「地域の人材育成」「雇用の機会の創出」に資する活動を通じ、地域の活力向上を図ることを目的とする。

2 活動が始まったきっかけ

2020東京大会に向け、土産品にもなり得る「八王子の地酒づくり」でまちおこしを行おうというプロジェクトが平成26年に立ち上がった。八王子産米を使うことで、農業振興にも貢献できる。

3 会員資格・年会費・会員数

会員資格なし

年会費：正会員1口 5,000円 賛助会員1口 10,000円 ボランティア会員 無料(イベント運営手伝い)

会員数42名(令和2年3月時点)

4 会員の募集方法・特徴

会員からの紹介など

5 行政等からの支援の有無

八王子市より地産地消地活の日本酒「高尾の天狗」酒米づくりプロジェクト事業に、2019年度市民企画事業補助金100万円交付

6 活動概要

法人理事は農家、酒販店、醸造元、副産物加工者等である。「酒米生産農家」を確保・保護するため「出来高制」ではなく10アールあたりの最低買取価格を設定し、農家の収入の安定化を図っている。

「市民参加型」を掲げ、田植えから稲刈りまで体験してもらい、地域活性化への貢献を感じてもらっている。

なお、酒づくり体験の参加人数は、田植え約150名 草刈り約40名 稲刈り約150名 蔵仕込み約40名

新酒を楽しむ会約200名 いずれも事務局イベントスタッフは含まず。

7 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っている事、今後の方向性など

八王子市内にかつて20軒あったものの、平成24年に最後の1軒が醸造を終了した「酒蔵」であるが、市内での醸造復活を目指し活動を進める。また、酒蔵を通じて農業振興、地域文化再興、自然環境利活用などによる地域活性化をめざす。

8 事務局もしくは会員からひとことメッセージ(援農に興味を持っている方へのメッセージ、活動の感想など)

伝統ある八王子を農業、観光、地域文化、産業の創出に繋げる「農業まちづくり」で、八王子発の6次産業化を推進し、「顔の見えるはちぷろ」を発信して行きたいと考えています。

9 問合せ先(事務局・グループ連絡先等)

住 所 〒192-0063 東京都八王子市元横山町1-17-10

電 話 042-645-7763 Eメール info@hachipro.org

法人webサイト <http://www.hachipro.org> 担当者名 代表理事 鶴田 隆一

1 活動の目的

- (1) 市民に農と畑に接する場を提供する事
イベントや情報媒体を活用して、農業・農地・農家の役割や魅力を発信、普及・啓発する事、また農家の支援、例えば地元作物の流通の支援等、農の大切さを共有する地域の農や緑の保全活動への参加、自然と調和したまちづくりに寄与することを目的とする。
- (2) 農の価値に気が付き、減少していく都市農地の継続に関心につながる。
農家と住民の接点となる活動の企画・育成、及び参加

2 活動が始まったきっかけ

喜多見農業公園(世田谷区立)の運用サポートへの2016年からの参加が起点。その後、公園運営業務で養った農作業経験のある会員が、継続して農に関わる地域活動に関わる希望を基に、地元の農と野菜に関わる活動を開始する。

3 会員資格・年会費・会員数

会員資格特になし(農に関心をお持ちの方) 入会金年会費なし 会員数11名(令和2年3月時点)

4 会員の募集方法・特徴

会員の口コミ、FacebookのSNSへの連絡、世田谷区立喜多見農業公園に関連する活動を通じて募集
属性:会社員7名、主婦3名、無職1名 年代:30代~60代
参加動機の傾向:地域の農地・みどりへの関心を持たれる方が増えている。

5 行政等からの支援の有無

公益信託 世田谷まちづくりファンドによる助成

6 活動概要

援農活動:実施農家数3、援農作業数4名 報酬(無償) 週1回程度
地元野菜の販売支援:地元マルシェへの出店 頻度:月1回程度
地元野菜の料理会開催:年2回 参加人数(15名程度 参加費500円)
農にかかわる映画上映会の開催:年1~2回程度
地元保育園での地場野菜販売:随時 年2回程度
地元保育園の園児の畑・収穫体験イベントの開催:年2回程度(無償)
喜多見農業公園の運用(世田谷区公園緑地課)に関わる連絡会への参加:年に3回程度
区内のみどり保全活動への参加:年1回程度

7 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っている事、今後の方向性など

農と農家との活動に積極的に取り組む意欲のある方の活動のコミュニケーション機会・時間の不足を感じる。
今後はイベント開催など活動を活性化するとともに、会員増加を目指す。また、他の援農団体などとの連携を行う。

8 事務局もしくは会員からひとことメッセージ(援農に興味を持っている方へのメッセージ、活動の感想など)

援農ボランティア、マルシェへ出店、地元野菜のお料理会など、農に触れてみませんか? 一緒にやりませんか?

9 問合せ先(事務局・グループ連絡先等)

Eメール bunichitajima001@gmail.com https://www.facebook.com/noutomidori/?ref=profile_intro_card

NPO 法人 緑の大地会

八王子市

1 活動の目的

人と自然の調和を図るべく、環境保全啓発、バイオマス資源の有効活用、土壌修復及び環境関連施設の管理運営等を行い、循環保全型農林業の構築を図ることを目的とする。

2 活動が始まったきっかけ

土壌改良材としての木質チップの可能性の拡大

3 会員資格・年会費・会員数

会員資格：会設立の趣旨に理解がある方

正会員（ツリー会員）：議決権を持ち 主体的にNPOの事業を推進 入会金10,000円 年会費12,000円

準会員（リーフ会員）：発生木質材再資源化循環システムの利用者 入会金5,000円 年会費6,000円

賛助会員（アース会員）：活動を応援する法人・個人 【賛助会員】 入会金30,000円 年会費24,000円

4 会員の募集方法・特徴

法人WEBサイト・会員の紹介で募集 特徴：地元の建築土木業、造園業者、自然再生に関心のある方等で構成

5 行政等からの支援の有無

支援なし

6 活動概要

○木質系チップの資源循環事業

木質チップ化による土壌改良材の生産指導（通年：埼玉県深谷市）

- ・ 会員から剪定枝等自然由来物を受入れ、チップ化、会員酪農業者への供給をおこなっています（畜産生産者の豚舎等に敷き、回収、攪拌して堆肥が作られます）
- ・ 堆肥は、自分で取りに来られる近隣の方や体験型農園の利用者に無償で提供し、活用してもらいます。

○里山保全活動、イベントの実施

ツリークライミング（八王子市堀之内）

→毎年秋1回、参加者20名前後、参加費なし

ツリークライミング＋水遊び（静岡県富士宮市）

→毎年2回（春・秋）、参加者20名前後、参加費なし

○安心・安全な農業づくり

体験型農園の運営・研修（通年：八王子市石川町、会員所有農地）

7 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っている事、今後の方向性など

製造済チップの処分先の拡大が課題。今後は、バイオマス発電の可能性を模索する。

8 事務局もしくは会員からひとことメッセージ（援農に興味を持っている方へのメッセージ、活動の感想など）

森林資源を有効利用するための“橋渡し役”として尽力しています。

9 問合せ先（事務局・グループ連絡先等）

住所 東京都八王子市堀之内799番地

電話 042-689-5236 Eメール m.daichikai@bz03.plala.or.jp

法人webサイト <http://midorinodaichikai.org/>

1 活動の目的

わが国の農業経営の担い手を積極的に支援し、就農人口の増加および国内生産物の消費向上運動に関する事業を行うことにより、食料自給率向上という公益の増進に寄与することを目的とする。

2 活動が始まったきっかけ

- ・我が国の就農人口の減少に鑑み、就農者を増やすためにはどうしたらよいかと考え、直接の就農の取り組みは難しいので農業体験を通じて少しでも農業の現状を理解してもらうことから取り組むこととした。
- ・また、「農業体験」希望者を農家に斡旋しているだけでは、農業に対する言葉の重みが出せないと考え、自ら農場運営（みらい体験農場）することで実感のこもった会話ができる環境を整えた。

3 会員資格・年会費・会員数

【正会員】 この法人の目的に賛同して入会した個人 ※会員の入会について、特に条件は定めない

【賛助会員】 この法人の目的に賛同し賛助するために入会した団体

一般会員6,000円 農家会員6,000円 団体会員24,000円 学生会員1,000円 入会金：なし

4 会員の募集方法・特徴

一般会員は口コミ、Facebook、会員・支援者へのメール、近隣へのポスティング、大学キャリアセンター活用
農業に対し関心あり、何らかの農業に関係した者が多く、年代は50歳以上の者が90%

5 行政等からの支援の有無

特になし

6 活動概要

「農業体験プログラム事業」 参加者自らが農家に出向き、農業体験（研修）をする。参加者には農業生産の大切さ、食の大切さを理解し、将来、自ら就農することを期待。

「はたけっこクラブ」 平成26年より武蔵大学、立正大学、立教大学の農業経済ゼミ生を中心に農作業や農家経営者の“生の声”を通して、現実の農業経営を知ることがを目的に創設し、活動を開始した。東久留米市の農家で月2回の定例農作業をおこなっている。

「みらい体験農場の運営」 法人自らも農業体験の場を持つことが大事と考え、みらい体験農場を開設。農業体験ができる場として地域住民・学生に参加を呼びかける。

「インターンシップ生の受け入れ」 農事組合法人埼玉産直センターで就労体験研修を実施。武蔵大学から始まり、現在は立正大学の学生を受入

7 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っている事、今後の方向性など

農業体験対象者を大学生中心から就農希望の青年層も対象にしたい。多摩地域に体験農場を設置したい。各種調査事業も行いたい。また、各種農業団体との交流を活性化したい。

8 事務局もしくは会員からひとことメッセージ（援農に興味を持っている方へのメッセージ、活動の感想など）

国は大規模農業を対象にスマート農業を推進しているが、都市農業には馴染まないのではないか。やはり家族経営農業を支える対策が必要。そのために労働力の確保、農家経営のあり方等を十分検討すべきと考える。

9 問合せ先（事務局・グループ連絡先等）

住所 清瀬市梅園3丁目21-23 電話 042-497-1645 Eメール toiawase@nou-mirai.org
https://www.facebook.com/nou.mirai/ 事務局長 田沼 繁

3 農業振興に関する活動を行う団体(東京都以外)の活動状況調査(令和3年1月)

全国には、農業振興に関わる活動を行っている団体(NPO法人等)があります。
ここでは全国の8団体から得た活動状況調査の結果を紹介します。

回答をお寄せいただいた8団体のうち、現在農業者の農作業支援を行っているのは5団体で、有償あるいは無償で地域の農家において、播種、栽培管理、収穫、出荷調製などを行っています。

1	農業振興に関わる活動をしている	8 団体
2	農作業の支援をしている	5 団体 (詳細は P.21 ～ P.25)
3	援農ボランティアをしている	4 団体 (有償…1 団体 無償…2 団体 場合により有償または無償…1 団体)
4	農作業受託をしている	1 団体 (有償 0 団体、無償 1 団体)
5	援農ボランティア、農作業受託以外の農作業支援をしている	5 団体
6	団体が農作業の支援をしている農家の戸数 (総合計)	47 戸
7	農作業の支援を行う者の人数 (総合計概算)	174 名
8	農作業の支援を行う者に対して研修を実施している	3 団体
9	農作業支援を行う上での問題点・課題がある	8 団体
10	今後、新規もしくは事業拡大として、農作業支援を検討している	3 団体

次ページ以降に各個別票を記載



NPO法人 アグリサポート深谷



NPO法人 ファームハウスなるい



NPO法人 里地里山問題研究所



NPO法人 小田原食とみどり

NPO法人 アグリサポート深谷

1 活動の目的

深谷市の農業は全国と同じく、都市化、高齢化、後継者不足といった状況がみられ、近年、耕作面積の減少とともに耕作放棄地も散見されるようになり、行政の課題ともなっている。このような状況を打開すべく、農家・市民を対象として、援農サポートによる農家の人手不足の解消や地域農産物の普及・販売並びに市民の農業体験活動を通じ、農業・農地を市民や諸団体とともに連携し、保全・活用することが可能である。また、これらの活動により、地域農業の理解とともに環境を守り、生活する人々にとって潤いのある豊かな暮らしの実現を目指していきたい。

2 活動が始まったきっかけ

深谷市内の農家も高齢化や人手不足により農業経営を維持していくことが困難になりつつある。いずれ作業受託、法人化の道を進むものと思われるが、少しでも農家の手伝い、農地の維持、環境保全に貢献したいと考えた。

3 会員資格・年会費・会員数

会員資格無し 正会員3,000円 賛助会員1,000円 会員数15名

4 会員の募集方法・特徴

法人webサイト、社会福祉協議会の広告情報誌への掲載により募集

【特徴】①深谷市アグリカレッジの開講と援農サポートによる人手不足の解消、②農業体験などの食農教育、③地域農産物の普及と販売

5 行政等からの支援の有無

無し

6 活動概要

野菜づくりの技術向上等と農家の手助けとなる援農ボランティアの養成を目指し、深谷市アグリカレッジを開講している。講座は年間10回(令和2年度)で深谷市民が対象。受講料は年間15,000円程度で、講義は春野菜の種まきから秋野菜の収穫まで(3月開講、12月閉講)

また、農作業体験などの食農教育、地域農産物の販売・普及活動をおこなっている。

7 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っていること、今後の方向性など

深谷市内の農家は、有償でも良いので作業を委ねられるベテランの援農ボランティアを希望している。

大都市圏と異なり、援農ボランティアへの理解・意識が低く、援農ボランティアの育成が難しい。

今後、援農ボランティアの育成を通じて農家への援農を考えていきたい。

8 事務局もしくは会員からひとことメッセージ(援農に興味を持っている方へのメッセージ、活動の感想など)

当法人の活動する深谷市は、東京をはじめとする都市部から遠く、スタッフ等協力をいただくことは難しいと思いますが、学生の方を含め興味のある方がいましたら是非いらしてください。深谷ネギも美味です!

9 問合せ先(事務局・グループ連絡先等)

住所 埼玉県深谷市西大沼361-11 電話 048-573-3013 Eメール nsuzuki@tbz.t-com.ne.jp

法人webサイト <http://agri-support.com/> 代表理事 鈴木 紀安

NPO法人 ファームハウスなるい

1 活動の目的

地域の高齢農家を対象とし、援農活動及び後継者探しの支援を行うことにより、農業の活性化を図り、又、障害者を対象とし、就労支援を行うことにより、障害者の豊かな日常生活の確立に寄与すること。

2 活動が始まったきっかけ

教え子の就労支援(特別支援学級・学校)

3 会員資格・年会費・会員数

農業者:入会金1,000円 年会費2,000円 会員数10名

ボランティア:入会金なし 年会費なし 会員数5名

4 会員の募集方法・特徴

チラシ、法人webサイトで募集

障がいのある方、就労意欲をなくした方の生きがいを応援。高齢農家、新規就農者を応援

5 行政等からの支援の有無

無し(2年前まで有)

6 活動概要

農作業と収穫したコメと野菜の特産品づくりにより、

- ・障がいのある方の就労を支援
- ・高齢農家と新規就農者を応援
- ・近隣住民の憩いの場
- ・読書喫茶・軽食コーナーなどでの交流
- ・新規就農者への農機の貸し出し、運転指導

7 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っている事、今後の方向性など

農地が広く、農業機械のメンテナンス経費負担が大きい。

今後も障がいのある方の居場所としての役割を担っていきたいと考えていて、グループホームと連携することも検討

8 事務局もしくは会員からひとことメッセージ(援農に興味を持っている方へのメッセージ、活動の感想など)

ここには田んぼや畑など、あなたが活躍できる場がたくさんあります。スタッフとして活動するうちに家庭菜園のスキルや、農業の専門的な知識・ノウハウをまなぶこともできますので、ぜひ一度活動の場へお越しください!

9 問合せ先(事務局・グループ連絡先等)

住所 兵庫県加古川市志方町成井578番地 電話 079-440-1525

Eメール narui578@ares.eonet.ne.jp 法人webサイト <https://www.narui578.jp/>

代表者氏名 寛 直樹

NPO法人 援農さがみはら

1 活動の目的

高齢化や担い手不足の農家等を対象とし、農作業の援助等に関する事業を行い、相模原市内の農業・農家の活性化、まちづくりの推進等に寄与すること。

2 活動が始まったきっかけ

市と農協による市民農業研修講座修了者の有志により平成17年にNPO 法人設立

3 会員資格・年会費・会員数

農業者 入会金なし 年会費なし 委託を受けた農家 10戸（委託回数12件）
ボランティア 入会金なし 年会費2,000円 会員数 87名

4 会員の募集方法・特徴

市民農業研修講座修了者への呼びかけ

5 行政等からの支援の有無

有

6 活動概要

- ・農作業受託 年間を通した圃場管理として委託され、生産した野菜はJAをとおして販売
JAからサツマ芋の委託管理
管理グループ毎にトウモロコシ、ブロッコリ、キャベツ等を生産し、JAをとおして出荷
- ・援農ボランティア 9:00～16:00を1日とし、謝礼として3,000円/日が目安
派遣した農家35戸 援農延べ日数2,178日
- ・農地の荒廃防止
- ・農家の人手不足の解消
- ・農業活性化のための学習や研修
- ・社会福祉活動としての収穫体験の場の提供

7 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っていること、今後の方向性など

- ・会員の高齢化、入会の前提となる市民農園研修講座の受講者の減少
- ・運営経費の不足

8 事務局もしくは会員からひとことメッセージ(援農に興味を持っている方へのメッセージ、活動の感想など)

大切な地域の農業を盛りあげ農家との交流で地域の歴史、気候風土を知る事ができます。
援農仲間が沢山できて楽しい充実した人生になります。
野菜栽培の技術を習得できて美味しい野菜をいつも食べられます。

9 問合せ先(事務局・グループ連絡先等)

住所 神奈川県相模原市緑区田名2436番地 相模原市農業協同組合営農センター内
電話 042-762-4336

NPO法人 小田原食とみどり

1 活動の目的

主に都市と農漁村の市民による人的交流事業を行うことにより、都市と農漁村市民が融合し、自然と人が共生できる環境保全・地域資源循環型社会の構築を目指し、心豊かな生活空間を創造することに寄与することを目的とする。

2 活動が始まったきっかけ

生産者の高齢化・収穫のもぎ手が不足しているなどの理由

また、環境に優しい農業の生産の現場へ関わることで生産者の苦勞(除草剤を使わない栽培から生じた苦勞など)への理解を促進するため

3 会員資格・年会費・会員数

個人賛助会員：1口 2,000円

団体賛助会員：1口 10,000円

4 会員の募集方法・特徴

過去には「援農クラブ」と題し援農者を常時募集していたが現在は休止中。個別の相談は可能

5 行政等からの支援の有無

無し

6 活動概要

- ・援農ボランティア 派遣した農家 1 戸 7 回(作業の内容・能力、農家により 有償、無償)
- ・体験交流事業(農の学校)
- ・地域特産物販売
- ・食農教育・環境教育・文化事業教育
- ・学習会の開催

7 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っている事、今後の方向性など

生産者の高齢化、運営経費の不足、事務局スタッフの不足

8 事務局もしくは会員からひとことメッセージ(援農に興味を持っている方へのメッセージ、活動の感想など)

大切な地域の農業を盛りあげ農家との交流で地域の歴史、気候風土を知る事ができます。

援農先の農家との関わりだけでなく、近隣住民との関わり、他の援農仲間と仲良くなったりと、自分の人生に新しい可能性が生まれます。

9 問合せ先(事務局・グループ連絡先等)

住所 〒250-0203 神奈川県小田原市曾我岸531 電話 080-5385-0465(事務局:小野)

Eメール desk@shoku-midori.or.jp 法人webサイト <https://www.shoku-midori.or.jp>

代表者氏名 鳥居 啓宣 担当者名 小野 まゆみ

NPO法人 里地里山問題研究所

兵庫県
丹波篠山市

1 活動の目的

豊かな自然と調和した人の暮らしが紡がれる里地里山を持続的に継承していくために、農山村の最も深刻な課題の一つである獣害問題の解決に向けた支援を通じて、地域に存在する豊かな「里の恵み(さともん)」をさまざまな人で共に守り、わかちあい、継承するネットワークづくりを行うことで、野生動物を含む多様な自然と持続的に共生できる地域社会の創生に寄与することを目的とする。

2 活動が始まったきっかけ

獣害対策として耕作放棄地の再生を進めていくため

3 会員資格・年会費・会員数

年会費なし 会員数70名

4 会員の募集方法・特徴

会員はSNS等で募集

5 行政等からの支援の有無

なし

6 活動概要

- ・地域が取り組む獣害対策や里地里山保全活動の支援
- ・地域の獣害及び里地里山の恵みをわかちあい、交流を深めるためのイベント・ツアー交流施設等の運営に関する事業
- ・獣害対策関連商品及び里地里山の農林産物の販売に関する事業

7 現在、運営・活動で大変に感じる事、困っている事、今後の方向性など

耕作放棄地、耕作困難地が増える一方、ボランティアの人数を増やしていくことが必要
地域とボランティアをつなぐコーディネート人材が必要

8 事務局もしくは会員からひとことメッセージ(援農に興味を持っている方へのメッセージ、活動の感想など)

地域では農業だけでなく集落維持にかかわる様々な活動で担い手不足となっています。地域に繰り返し通いながら、沢山ある農村の魅力を感じ、ともに守っていくことに力を貸してください。

9 問合せ先(事務局・グループ連絡先等)

住所 669-2214兵庫県丹波篠山市味間新315 電話 079-550-9037 Eメール info@satomon.jp
法人webサイト <https://satomon.jp/> 代表者 鈴木 克哉

3

都内区市町村における援農ボランティア制度の調査

(平成30年度実施)

東京都の区市町村でも農作業を支援する取り組みが広がっており、農作業の支援を行っています。

ここでは、都内40の区市町村に対して行ったアンケートの結果を紹介します。(平成31年3月実施)

問1 自治体として、援農ボランティアの推進にかかる事業の実施について(平成30年度の取組みについて)

(自治体数)

① 実施した	23
② 実施しなかった (1)～(6)に実施しなかった理由(複数回答)	15
(1) 農業者からの要望がなかった	8
(2) 援農参加者(ボランティア参加者)が見込まれなかった	5
(3) 自治体の事業実施体制が整っていなかった(人員・予算など)	9
(4) 援農ボランティアの推進について事業実施のノウハウがなかった	4
(5) 過去に実施したことがあるがうまくいかなかった	2
(6) 要望はあるが受入れに際して農業者にためらいがある	1
③ 未回答	2

問2 実施した事業内容(平成30年度に実施した内容)

①	受入希望農家を募集した	17
②	ボランティアの受入が可能と思われる農業者に受入農家になることを依頼した	8
③	援農ボランティアを募集した(養成講座等の実施は不問)	21
④	援農ボランティアは他自治体の住民も応募可能とした	8
⑤	援農ボランティア受入希望農家名簿を、援農を希望する者が利用(閲覧)できるようにした	1
⑥	援農ボランティアを育成した(養成講座、実習等を実施)	16
⑦	援農ボランティアと受入希望農家のマッチング(初回顔合わせ等調整)のみを行いマッチング後の援農受入・参加は当事者にまかせた	13
⑧	援農ボランティアの名簿を受入希望農家が利用(閲覧)できるようにした	1
⑨	受入希望農家から随時援農(作業)依頼を受け付けて登録している援農ボランティアに連絡し参加可能な者を派遣した (例) 受入希望農家から日時を指定した援農依頼 FAX・電子メールが届いたら区市町村担当者が登録している援農ボランティアに情報を配信等	8
⑩	地域で育成・登録した援農ボランティアの活動状況(受入農家数、ボランティア実動人を把握)	14
⑪	事業の実施にあたり NPO、JA 等への委託・協定など民間団体を活用した ※(公財)東京都農林水産振興財団の活用は除く	7
⑫	(公財)東京都農林水産振興財団の地域援農ボランティアの養成事業(東京の青空塾) 援農ボランティア養成講座を利用した	8
⑬	援農ボランティアの保険料を負担した ※費用の一部・全部、ボランティアの全員・一部(新規登録者のみ等)は不問	10
⑭	援農ボランティアが使用する農作業用消耗品の配布または費用の助成 (例) 農作業用手袋・帽子・地下足袋など	3
⑮	その他・特記事項(事業の特徴) など	2

東京都の区市町村でも農作業を支援する取り組みが広がっており、農作業の支援を行っています。

ここでは、都内40の区市町村に対して行ったアンケートの結果を紹介します。(平成31年3月実施)

問1 自治体として、平成31年度に援農ボランティアの推進に係る事業を実施する予定について (自治体数)

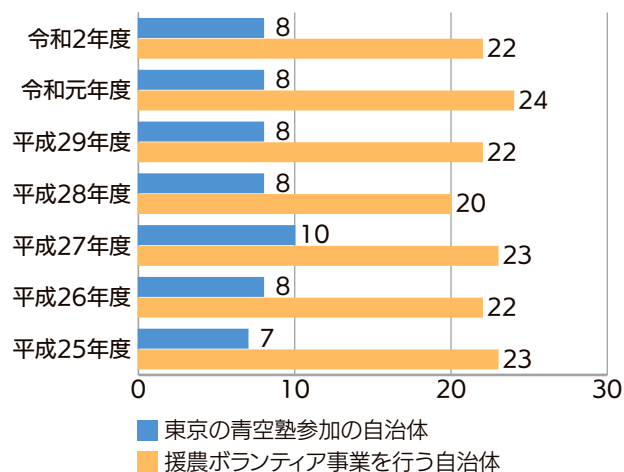
① 実施する	25
② 実施しない (1)～(6)に実施しない理由(複数回答)	13
(1) 農業者からの要望がなかった	7
(2) 援農参加者(ボランティア参加者)が見込まれなかった	4
(3) 自治体の事業実施体制が整っていなかった(人員・予算など)	6
(4) 援農ボランティアの推進について、事業実施のノウハウがなかった	3
(5) 過去に実施したことがあるが、うまくいかなかった	0
(6) その他 事業の方針を検討中など	3
③ 未回答	2

問2 実施する予定の事業内容

①	受入希望農家を募集する(前年度からの受入継続も含む)	18
②	ボランティアの受入が可能と思われる農業者に受入農家になることを依頼する	8
③	援農ボランティアを募集する(養成講座等の実施は不問)	24
④	援農ボランティアは、他自治体の住民も応募可能とする	10
⑤	援農ボランティア受入希望農家名簿を、援農を希望する者が利用(閲覧)できるようにする	2
⑥	援農ボランティアを育成する(養成講座、実習等を実施)	18
⑦	援農ボランティアと受入希望農家のマッチング(初回顔合わせ等調整)のみを行いマッチング後の援農受入・参加は当事者にまかせる	16
⑧	援農ボランティアの名簿を受入希望農家が利用(閲覧)できるようにする	1
⑨	受入希望農家から随時援農(作業)依頼を受け付けて登録している援農ボランティアに連絡し参加可能な者を派遣する (例) 区市町村あてに受入希望農家から日時を指定した援農依頼 FAX・電子メールが届いたら区市町村担当者が登録している援農ボランティアに情報を配信する等	9
⑩	地域で育成・登録した援農ボランティアの活動状況(受入農家数、ボランティア実動人数)を把握する	14
⑪	事業の実施にあたり NPO 法人または JA 等への委託・協定など民間団体と連携する ※(公財)東京都農林水産振興財団は除く	6
⑫	(公財)東京都農林水産振興財団主催の地域援農ボランティアの養成事業(東京の青空塾) 援農ボランティア養成講座を利用する	8
⑬	援農ボランティアの保険料を負担する ※費用の一部・全部、ボランティアの全員・一部(新規登録者のみ等)は不問	12
⑭	援農ボランティアが使用する農作業用消耗品の配布または費用の助成 (例) 農作業用手袋・帽子・地下足袋など	3
⑮	その他	3

参考／財団事業紹介 地域援農ボランティアとボランティア養成中央研修(東京の青空塾)

援農ボランティア事業の実施状況(都内)



農業者の高齢化や後継者不足など、農作業の担い手不足の問題を抱えた農家を支援するために、多くの都内自治体が援農ボランティアの育成、紹介などの取り組みを行っています。

募集方法は自治体広報紙・ホームページなどが多く、原則として、当該地域に在住・在勤の方を対象としています。

※(公財)東京都農林水産振興財団が40区市町村を対象に調査

※平成30年度は調査を実施せず

※令和2年度の東京の青空塾参加自治体は10(内2自治体は受講生を募集せず)

東京の青空塾事業のご案内

東京の青空塾事業とは、農業に関心を持つ都民を対象に、農作業体験や農家との交流を通して、農業の意義や役割について理解を深めてもらい、農家と共に、安全で新鮮・良質な農産物等の生産を担う、東京農業の支え手である「援農ボランティア」を養成し、認定を行う事業です。

平成8年度から東京都の事業として始まり、平成13年度からは(公財)東京都農林水産振興財団が自主事業として実施しています。

同事業に参加している区市町村、JAは、広報紙やホームページ等を通じて援農ボランティア養成講座受講者の募集を行います。

養成講座には野菜、花き、果樹、植木の4つの専門コースがあり、お住まいの地域の農家で行う農作業実習(10回)と、(公財)東京都農林水産振興財団で行う中央研修(講義2回、視察研修1回)があります。原則7割以上出席した受講者は、「援農ボランティア」として認定されます。

毎年度50～100名程度、これまでに2,400名以上の方が認定されており、認定後はお住まいの地域で「援農ボランティア」として活躍しています。



中央研修(東京都農林水産振興財団 野菜講義)



中央研修(東京都農林総合研究センター 野菜圃場見学)



中央研修(東京都農林総合研究センター 花き圃場見学)



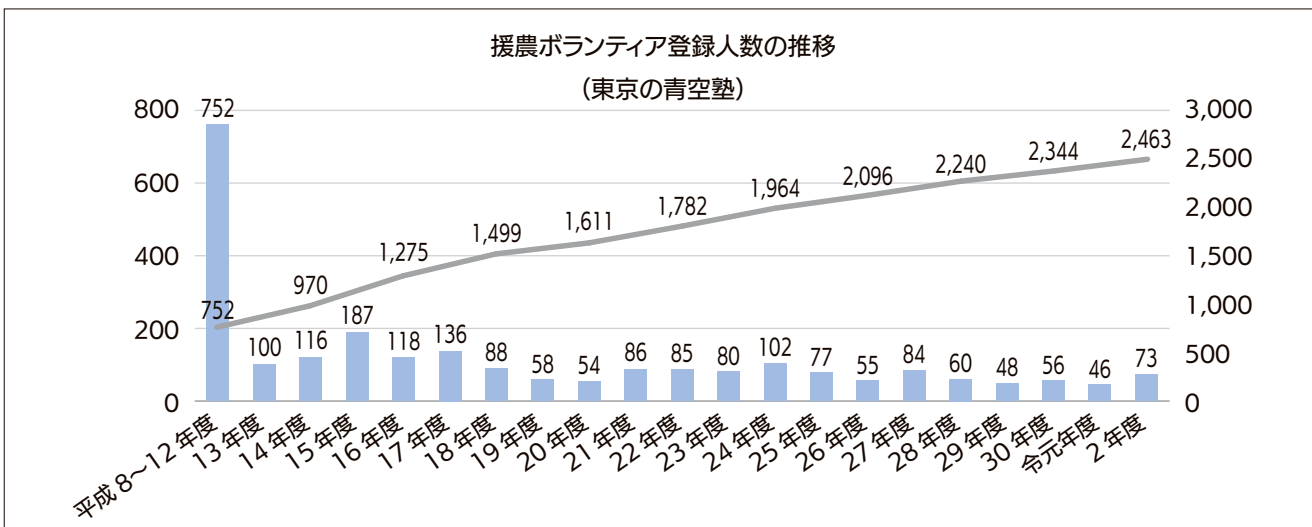
中央研修(東京都農林総合研究センター 果樹圃場見学)



中央研修(講義「援農に役立つ知識」)



閉講式(援農ボランティア認定証授与)



長期継続援農ボランティアの表彰

(公財)東京都農林水産振興財団では、東京の青空塾事業で援農ボランティアとして認定された方のうち、累計5年以上援農活動を継続されている方を長期継続援農ボランティアとして表彰しています。これまで、200名の方が表彰されています。(令和2年度末現在)



表紙写真



ダイコンの間引き



ブドウの摘葉



ナバナ類の収穫



施肥作業



エダマメの収穫



ブルーベリーの収穫

東京農業の支え手育成支援事業
報告書（平成30年度～令和2年度）

令和3年3月発行

編集・発行
公益財団法人 東京都農林水産振興財団 / 農業振興課
〒190-0182
東京都立川市富士見町3-8-1
TEL 042-528-1357

印刷
株式会社アトミ



公益財団法人 東京都農林水産振興財団 / 農業振興課
 〒190-0182 東京都立川市富士見町3-8-1
 TEL. 042-528-1357

とうきょう広域援農ボランティアについて
 詳しく知りたい方はこちら

とうきょう援農ボランティア



とうきょう援農ボランティア
<https://agrivolunteer-tokyo.jp>



石油系溶剤を
 含まないインキを
 使用しています



古紙パルプ配合率60%再生紙を使用



この印刷物は、印刷用の紙へ
 リサイクルできます。